





☆ HAVO（高校一般教育＝高等職業専門学校へ 5年間）さらに

→ HBO（高等職業専門学校 4年間）小学校教師，看護師，技術者

☆ VMBO（中等職業準備学校 4年間）さらに

→ MBO（中等職業専門学校 4年間）警察官，准看護師，美容師の資格など

LBO（初等実務中等学校 4年間）

\* オランダの落第制度

子どもそれぞれの発達程度の違いに対応して、「繰り返す」チャンスを与える制度。小学校の高学年になれば、20人いるクラスに、3，4人は、落第経験者がいるのは普通である。中等教育では、24人中6人くらいは、落第もあり。2年続けて落第の場合は、「お宅のお子さんは、本校の教育方針に合わないようなので、…」と転校を進められる。大学に入るのは比較的簡単なようだが、卒業するのはかなり難しいようである。

(1) 初等教育

オランダの初等教育は、4歳から12歳までの児童を対象としている。1985年に2年制の幼稚園と6年制の小学校が合体して「基礎学校」という名称の8年制の学校になる。この8年制初等教育においては、児童の感情、知性、創造性の発達と、十分な社会的、文化的、身体的能力を身に付けることに重点が置かれている。各初等学校は、政府が定めた規定に基づいて、ワークプランを立てる。学習・身体・社会的障がいのある児童には、特殊教育や特別ケアが提供される。

(2) 中等教育

12歳から子どもは、表にあるように3種類の教育を受けることができる。ほとんどの中等学校では、これらの教育の2種類以上を提供している。最初の2，3年間、学生は全員15教科からなる基礎形成教養課程で学ぶ。現在、オランダの17歳の95.7%は、全日制の中等学校の修了者か、または、在学中である。

(3) 職業教育

1996年に導入された成人・職業教育法は、包括的な成人および職業教育課程を提供する、地域教育訓練センターを設けた。職業教育課程は、学校での学習と実地研修からなっている。実地研修が最低20%から最高60%を占めるタイプと実地研修が課程の最低60%を占める2つのタイプがある。

(4) 高等教育

高等教育には、上級職業教育（HBO）と大学教育（WO）がある。2002年には、学士・修士資格制が導入された。18歳から27歳までの19.2%は全日制、0.8%は定時制で何らかの高等教育を受けている。オランダは、総合大学が9校、工科大学が3校、農業大学が1校あり、それぞれ専門研究機関もっている。

## 5. 義務教育の評価

オランダの公立学校の評価は、年3回保護者に渡され、親のサインを必要とする。

○ 読み・書き・計算・オランダ語・歴史・地理・理科の学科の評定

→ 10段階（卓越した，非常によい，よい，十分充足している，充足している，だいたい充足している，充足していない，非常に充足していない，悪い，非常に悪い）

○ 表現（音楽，美術，体育，手工）や態度・敏捷性・集中・興味・整とん

→ 4段階（よい，充足，弱い，不十分）

○ 簡単なコメントもある。

## 6. 教育の質の保持

これだけ、多様な教育を実現したオランダの教育だが、教育の質の保持は、どのようになされているのだろうか。

☆ 学校の選択権を保護者に与えること

学校の選択は、権利と同時に義務になっている。保護者が教育実践の援助を行う機会も非常に多い。

☆ インспекター制度（国の評価、点検機関）

各学校に目標を決めさせ、自己評価と自己改善のプロセスをどのように設定し、実施しているか監視する制度。

- ・「学校要覧」, 「学校計画書（4年ごとに更新）」の提出
- ・「子どもの一人一人の進捗記録」の提出

☆ 教員サポート機関の充実

- ・生徒指導, 学習指導などで現場の教師が困ったときに, 助言・支援する機関
- ・現場の教員と大学の研究者を結ぶサポート機関, 現場に根ざした実践的研究

## 7. おわりに

オランダの学校制度は、一人一人の子どもの個性を重視し、いずれは社会の中で自分はどのような役割（仕事）に就こうか、時間をかけて選択できる制度になっている。そのまま、日本で受け入れるわけにはいかないが、日本で最近言われている「キャリア教育」のあり方に示唆を与えてくれるような気がした。一方で、移民に寛容である国であるため、イスラム系の移民や東欧諸国からの移民の経済格差からくる教育の格差の問題も、取りざたされている。いずれにしても、国と国民が一体となって論議をしている風潮が、「歴史的に早くから市民社会を形成してきたオランダらしいな」と考えさせられた。